

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 3 区分

【発行日】平成25年2月14日 (2013.2.14)

【公表番号】特表2010-529398(P2010-529398A)

【公表日】平成22年8月26日 (2010.8.26)

【年通号数】公開・登録公報2010-034

【出願番号】特願2010-510448(P2010-510448)

【国際特許分類】

F 2 4 F 3/14 (2006.01)

【F I】

F 2 4 F 3/14

【誤訳訂正書】

【提出日】平成24年12月20日 (2012.12.20)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

加熱負荷、該加熱負荷を冷却するための第 1 の冷却システム、および該第 1 のシステムから熱を除去するための第 2 の冷却システムを備えた包囲空間用の湿度制御システムであって、処理空気ダクトおよび再生空気ダクトを有するハウジングと、前記包囲空間からの戻り空気および / または大気を処理空気ダクトへ供給する手段と ; 大気を前記再生ダクトに供給する手段と、前記処理空気ダクトおよび前記再生空気ダクトを通じて回転するために前記ハウジングに回転可能に取り付けられ、これにより前記処理空気ダクトにおいて湿気を吸収し、前記再生ダクトにおいて前記湿気を放出する乾燥剤ホイールと ; 前記再生ダクトにおける前記乾燥剤ホイールの上流側のコンデンサコイル、該コンデンサコイルに接続されたコンプレッサ、並びに該コンプレッサおよび前記第 2 の冷却システムに接続された熱交換器を有する第 3 の冷却システムであって、これにより、前記再生ダクトにおいて前記乾燥剤ホイールに供給される空気の温度を増大させるために前記コンデンサコイルに供給される、高グレードの熱を生成するために、該第 3 の冷却システムにより前記熱交換器から吸収された低グレードの熱が前記コンプレッサにより使用される第 3 の冷却システムと ; 前記処理空気流における前記乾燥剤ホイールの上流側の除湿コイル、該処理空気流における除湿コイルに接続された複数のコンプレッサ、および該複数のコンプレッサに接続されたコンデンサコイルを有する第 4 の冷却システムであって、これにより、前記処理空気ダクトにおいて、空気が前記乾燥剤ホイールに入る前に該空気を選択的に除湿するために、該乾燥剤ホイールに供給される前記空気の湿度のレベルに応じて、該第 4 の冷却システムにおける前記複数のコンプレッサが順次作動可能である第 4 の冷却システムとを備えたことを特徴とする湿度制御システム。

【請求項 2】

処理空気ダクトおよび再生空気ダクトを有するハウジングと、包囲空間用の湿度制御システムであって、前記包囲空間および / または大気からの戻り空気を前記処理空気ダクトに供給する手段と ; 前記大気を前記再生ダクトに供給する手段と、前記処理空気ダクトおよび前記再生空気ダクトを通じて回転するために前記ハウジングに回転可能に取り付けられ、前記処理空気ダクトにおいて湿気を吸収し、前記再生空気ダクトにおいて前記湿気を放出するための乾燥剤ホイールと ; 前記再生ダクトにおける前記乾燥剤ホイールの上流側のコンデンサコイルおよび該コンデンサコイルに接続されたヒートポンプを有する冷却シ

システムであって、該ヒートポンプが、熱交換器および前記コンデンサコイルと該熱交換器との間に接続された再循環液体ループであって、該再循環液体ループから前記再活性化空気流に熱を移すための再循環液体ループを有する冷却システムと；前記処理空気流における前記乾燥剤ホイールの上流側の除湿コイル、該処理空気流における除湿コイルに接続された複数のコンプレッサ、および該複数のコンプレッサに接続されたコンデンサコイルを有する他の冷却システムであって、これにより、前記処理空気ダクトにおいて、空気が前記乾燥剤ホイールに入る前に該空気を選択的に除湿するために、該乾燥剤ホイールに供給される前記空気の湿度のレベルに応じて、該他の冷却システムにおける前記複数のコンプレッサが順次作動可能である他の冷却システムとを備えたことを特徴とする湿度制御システム。

【請求項 3】

前記液体ループが、大気温度から隔離されてなることを特徴とする請求項 2 記載の湿度制御システム。

【請求項 4】

前記液体ループが、地下水またはグリコールループからなる群からの液体を含むことを特徴とする請求項 2 記載の湿度制御システム。

【請求項 5】

前記液体ループが、冷却塔ループであることを特徴とする請求項 2 記載の湿度制御システム。

【請求項 6】

前記液体ループが、低グレードの太陽熱ループであることを特徴とする請求項 2 記載の湿度制御システム。

【請求項 7】

前記液体ループが、一年中 45 度 F ( 7 . 2 ) から 95 度 F ( 35 ) の間に維持されることを特徴とする請求項 2 記載の湿度制御システム。

【請求項 8】

前記ヒートポンプにより生成される前記再生空気の温度が、105 度 F ( 40 . 6 ) から 135 度 F ( 57 . 2 ) の間にあることを特徴とする請求項 2 記載の湿度制御システム。